

氏名	森下 純子		
学位の種類	博士(看護学)		
学位記番号	第 6 3 7 号		
認定課程名	国立看護大学校研究課程部看護学研究科後期課程		
学位授与年月日	令和2年2月21日		
論文題目	根治的治療の適応外となった進行性肝胆膵がん患者の受療体験と生きたい思いに関する研究		
審査担当専門委員	(主査)	聖隷クリストファー大学 教授	本田 彰子
		武蔵野大学 教授	荻野 雅
		北里大学 教授	出口 禎子

審査の結果の要旨

本研究は、根治的治療の適応外となった進行性の肝胆膵がん患者の治療・療養の事象に基づく受療体験と生きたい思いを明らかにし、看護支援を検討することを目的としている。肝胆膵がんは自覚症状が少ないために、診断がついたときには根治を目指した治療ができない状態に進行していることが多い疾患である。そのような状態でがん患者が抱く「生きたい思い」に注視し、本研究に取り組んだ。

「生きたい思い」に類似する「生きがい」「希望」などとの概念を整理し、また、厳しい状況にある進行性肝胆膵がん患者の特徴を明確にして、療養者の語りの分析を行った。対象者は転移再発があり、手術や化学療法を受けた経験がある18名の肝胆膵がん患者であった。平均1.5回の面接を行い、受療経験と現在までの「生きたい思い」を抽出し、グラウンデッド・セオリー法により分析を行った。

受療体験については、発覚期・診断告知期・治療法模索期・受療期・変調期の受療経過での体験を整理・明示した。また、その時の「生きたい思い」の特徴を示し、構造化した。「生きたい思い」には、生への積極性や意思の強さを表すもの、消極性や低迷を表すもの、死という正反対の意味を持つ言葉で表されるものが、複雑に存在している様相を説明することができた。

本研究は、がんの新しい治療法が定着し、がん=死のイメージがなくなってきている現在でも、治療ができない進行性がん患者の存在に目を向け、ひとり一人の病気や治療の体験の受け止めに「生きたい思い」の観点から大切にして支援する看護の在り方を検討した研究である。本研究結果は、治療時期や治療法が多様化

している中で、治療法がない状況におかれたがん患者の思いに添った支援を見出し、ケアの質向上につながるものと考えられる。

以上より、本論文の学術的価値を認め、博士（看護学）授与に価すると判断した。